

ペットとの暮らしを活用する豊かな社会 — それを可能にする環境整備 —



主催者趣旨説明

○司会 それでは最初に、主催者より、「何故このようなシンポジウムに取り組むのか」について、少しお話をさせていただきます。

まもなく、阪神・淡路大震災から 30 年を迎えます。あの震災では、日本で初めて組織立った動物救援事業が行われ、兵庫県、神戸市、神戸市獣医師会、日本動物福祉協会阪神支部を中心に 1545 頭の保護・譲渡が行われました。その一年後に譲渡動物の調査が行われ、大人の犬・猫も新しい飼い主さんに懐き、幸せに暮らしていたことがエビデンスとなり、行政の施設でも、大人の犬・猫の譲渡が始まり、この後、各地に動物愛護センターが設置され、1999 年には、動物愛護法へと改正となり、人と動物の関係は、制度の大きな転換点を迎えました。

動物愛護法は、動物愛護の法律と思われがちですが、その先に「人と動物の共生する社会の実現を図ること」を目的としています。

神戸市では、日本初の「神戸市人と猫との共生に関する条例」を制定され、「神戸市人と猫との共生推進協議会」を設置。官民協働で共生社会実現を進めています。私共 Knots は、この協議会の監事を務めています。

そして、2021 年、公共の施設としては初めて「共生」と名付けられた「こうべ動物共生センター」が設置され、民間に運営が業務委託されています。現在、私共 Knots が受託を致しております。

私共 Knots は、阪神・淡路大震災の譲渡動物の調査に参加したことをきっかけに設立され、来年 25 周年を迎えます。

Knots につきましては、皆様にご覧いただき、私たちの想いがどうしたら伝わるのかと考えまして、ひとつの動画をお見せすることに致しました。

この動画は、「こうべ動物共生センター管理運営業務」のプロポーザルの際に作成しましたものを、少し再編集致しております。内容はあくまでも提案ですので、できていることあれば、チャレンジしていることもあることはご了承お願い申し上げます。

最初に出てくる綺麗な景色は、こうべ動物共生センターがある、神戸市の総合福祉ゾーン「しあわせの村」です。それでは、ご覧下さい。

～ 動画上映～

皆さま、動画をご覧いただき、ありがとうございました。

私共 Knots は、一言で表現しますと、「この涙マーク、皆さんの課題に寄り添い、これをハートマークにするにはどうしたらいいか」と、啓発・教育・研究の手法で日々取り組んでいる団体でございます。

さて、今回のシンポジウムでは、涙マークは、企画趣旨にも記載致しましたとおり、「高齢・単身社会を迎えている今の日本の課題」です。それに対して、「子どもの数より多いペットたちとの暮らしを活用」して、ハートマークができないかというテーマに取り組んでいます。

それでは、

『ペットとの暮らしを活用する豊かな社会—

それを可能にする環境整備ー』

第1部では、神戸市出身の谷口優先生に、「動物が人にもたらす健康効果」を教えてください。

谷口先生は、国立研究開発法人 国立環境研究所 主任研究員、地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 協力研究員、東京大学客員研究員、メルボルン大学客員研究員としてご活躍です。

それでは、谷口先生、どうぞよろしくお願いいたします。